



「鉄のリサイクルの特性、その重要性を訴えてきたこと」が評価されたのかな」と笑みをみせるのは今年度のLCA日本フォーラム表彰(LCA日本フォーラム主催、経済産業省などが後援)で功労賞に輝いた川合良彦・日鉄総研取締役相談役。

LCA(ライフ・サイクル・サステナビリティ)は製品のライフサイクル全体の環境負荷を評価する方法。1992年のリオサミットで「アジェンダ21」が採択されたことをきっかけに、世界各地で環

## LCA日本フォーラム表彰功労賞受賞

### 川合良彦・日鉄総研取締役相談役

# 鉄のリサイクル訴え

への関心が高まった。鉄鋼業界はIISI(国際鉄鋼協会、現WSSA・世界鉄鋼協会)が1995年にLCAフォーラムを、日本鉄鋼連盟でも同じ年にLCA検討ワーキンググループが発足し、取り組みが始まった。川合氏がLCAと関わったのは2000年に新日本製鉄(現日本製鉄)からベルギー・ブリュッセルの国際鉄鋼協会の技術・環境部長に転じた時から。世界の鉄鋼メーカーのLCA担当者が集まるフォーラムの企画・運営を行い、鉄のリサイクル性を反映したLCI(ライフサイクル・インベントリー)の算定方法を粘り強くまとめた。11年には公表され、世界の鉄鋼メーカーはこの方法をベースに算定するという画期的な成果につながった。

08年に新日鉄に戻るが、09年から同社でLCAを担当するとともに、鉄連のLCA検討ワーキンググループでも主査として活動を主導。この間は経済産業省や環境省が進めるカーボンフットプリント、GHG(グリーンハウスガス・温室効果ガス)などの調査・研究チームにも鉄連代表として参加するほか、LCI計算ソフトウェアの計算事務者の育成なども支援した。このリサイクル性まで網羅した計算手法は、18年に日本発案のISO(国際標準化機構)で規格化もされた。

13年に日鉄住金総研(現日鉄総研)の社長に転じるが、日鉄総研でもLCA事業を立ち上げ、鉄連や日鉄を支援する体制を作り上げた。

国連の「SDGs」や「ESG投資」など環境に対する社会的な意識が高まるばかり。それだけに前提をはっきりしたリサイクル性を示すことで、鉄鋼製品が正しく評価されることを願っている。